

平成21事業年度業務実績報告書の概要



世界を視野に地域から始めよう

医学部附属病院新外来診療棟(平成22年2月竣工)



国立大学法人 宮崎大学

目 次

1. 大学の基本的な目標	1
2. 大学の概要	1
3. 業務運営の改善及び効率化	2
4. 財務内容の改善	3
5. 自己点検・評価及び情報提供	4
6. その他業務運営	5
7. 教育研究等の質の向上の状況	6
(1) 教育方法等の改善	7
(2) 学生支援の充実	9
(3) 研究活動の推進	11
(4) 社会連携・地域貢献、国際交流等の推進	13
(5) その他	16
8. 附属病院	17
9. 附属学校	20

1. 大学の基本的な目標

- ① 人類の英知の結晶としての学術・文化・技術に関する知的遺産の継承と発展、深奥な学理の探求を目指す。
- ② 変動する多様な時代並びに社会の要請に応え得る人材の育成を使命とする。
- ③ 地域社会の学術・文化の発展と住民の福利に貢献する。
- ④ 人類の福祉と繁栄に資する学際的な生命科学を創造するとともに、生命を育んできた地球環境の保全のための科学を志向する。



宮崎大学長
菅沼龍夫

2. 大学の概要

(1) 学部等の構成

- 学 部 : 教育文化学部、医学部、工学部、農学部
研 究 科 : 教育学研究科、医学系研究科、工学研究科、農学研究科、農学工学総合研究科
別 科 : 畜産別科
附属施設等 : 図書館、産学連携センター、教育研究・地域連携センター、
フロンティア科学実験総合センター、国際連携センター、安全衛生保健センター、
情報化推進組織(情報戦略室、情報支援センター)
教育文化学部附属 : 教育実践総合センター、幼稚園、小学校、中学校
医学部附属 : 病院
農学部附属 : 自然共生フィールド科学教育研究センター、動物病院、農業博物館

(2) 学生数及び教職員数(平成21年5月1日現在)

- 学 生 数 : 学部学生 4,817人(21人)、大学院生 717人(47人) 注:()内は外国人留学生で内数
教 職 員 数 : 教員 656人、職員 753人

3. 業務運営の改善及び効率化

(1) 組織面での特色ある取組

- ① 学長のリーダーシップのもと、役員会、経営協議会、教育研究評議会及び部局長会議を機能的に運営。
- ② 競争的教育研究資金獲得のための戦略的かつ組織的な方針を策定する戦略企画本部を設置。

(2) 人事の適正化での特色ある取組

- ① 「若手研究者の自立的な研究環境整備促進事業」によるIRO特任助教を国際公募し、外国人1人を含む10人を雇用。
- ② 障害者雇用促進法に定める法定雇用率(2.1%)を確保。



「宮崎発！第1回九州アイランド女性研究者支援シンポジウム」
文部科学省 生涯学習政策局長特別講演
「女性研究者のさらなる活躍を目指して」

- ③ 女性教職員に対する仕事と家庭の両立等における支援や環境整備の充実を図るため、木花キャンパスにも「清花Athenaサポート室」を設置。



木花キャンパス
清花Athena サポート室看板除幕式

- ④ 女性研究者の研究の質や意欲の向上、自己実現の支援を目的として、「宮崎発！第1回九州アイランド女性研究者支援シンポジウム」を開催。
- ⑤ 事務系職員の人事評価結果を、給与・勤勉給及び昇任人事に反映。

(3) 業務運営の効率化・合理化での特色ある取組

- ① 業務改善アクションプラン策定や事務組織再編の推進等の改善のため、業務改善推進室を設置。

4. 財務内容の改善

(1) 外部資金の獲得や自己収入増加のための取組

- ① 大型プロジェクト: 文部科学省科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進事業」、GP「大学教育充実のための戦略的・大学連携支援プログラム」が採択。
- ② 競争的研究資金の獲得のため、宮崎県、県工業会等と産学官連携の公募事業に共同で申請し、「みやざき産業振興プラザ(仮称)」が採択。
- ③ 医学部附属病院の病床配分の見直しによる病床稼働率の向上、ICUの増床により、収入増加。
- ④ 医薬品費の低廉化に努め、医薬品契約支援業務委託契約により、経費削減。
- ⑤ 農学部附属動物病院への学長管理定員による教員配置、戦略重点経費による医学部からのCT移管、設備導入及び診療費の改定等により、収入増加。



オープンキャンパス会場



牛の診療風景



農学部附属動物病院のCT装置

- ⑥ 入学志願者増を目指し、出前講義、学校訪問、オープンキャンパス、首都圏を含む県内外での進学説明会、横浜での個別学力検査を開催。



第2回『大学は美味しい!!』フェア

- ⑦ 大学ブランドの広報・増収に向け、東京で開催された「大学は美味しい!!」フェアへの参加や「大学牛乳」の地域での販売を開始。

5. 自己点検・評価及び情報提供

(1) 評価の充実に関する取組

① 自己点検評価の実施体制を整備し、中期目標・中期計画の達成に向けて事業を推進。

② 教育・研究・社会貢献・管理運営の業務の自己点検・評価の実績報告書及びそれに対する国立大学法人評価委員会の評価結果をホームページ上に公表。平成21年度から、学外者に分かり易い実績報告書の概要版(写真・図入り)を作成し、ホームページ上に公表。



平成20事業年度業務実績報告書の概要

世界を視野に地域から始めよう

国立大学法人 宮崎大学

平成20事業年度の実績報告書の公表資料

(2) 情報発信に向けた取組

① 教育研究等の情報を社会に積極的に発信するため、秘書広報課を設置。

② 各部局等における教育研究に関する情報を集約・整理し、来訪者への情報提供のため、学内に「インフォメーションコーナー」を設置。

自己評価の内容	
I 教育活動	<p>1. 教育の質の向上や高い質の維持に関する取組の状況</p> <p>(1) 学士課程</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの4課程を学校教育課程(150人)と人間社会課程(80人)の2課程に改組した。 教育実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの各段階で達成目標を明確化し、学生が自己評価を行い、課題を解決して次のステージへと進むカリキュラムに改革を実施した。 フィールド教育を積極的に活用して学生の課題解決力の育成に努めた。 <p>(2) 大学院課程</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度の教員養成や職業教員研修を目的とする新職実践開発専攻(専門職学位課程)と臨床心理士・日本語支援教育の専門家養成を目的とする学校教育支援専攻(修士課程)に改組し、地域社会や教育界のニーズに対応する研究科に特化した。 大学改革推進事業「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育プログラム」(奈良教育大学大学院教育学研究科申請)に共同申請研究科として応募し採択された。 <p>(3) 入学者確保のための取組</p> <p>【入試方法等の改善、オープンキャンパス、出前講義等】 出願直前の進学説明会や「まちなかオープンキャンパス」(人間社会課程)を開催した。</p> <p>2. 学生支援の充実に関する取組</p> <p>【履修指導・学習支援】 年間を通しての学生へのきめ細かな履修指導体制を構築し、実施している。また、保護者懇談会を通して保護者との連携を図った。</p> <p>【学生相談・就職支援】 精神面での支援が必要な学生に対する指導の指針を作成し、教員集会で周知した。就職支援のためガイダンス(15回)、休講中における学生から教員への相談・緊急時連絡体制の整備、系内外の企業訪問等を行った。</p>
	<p>II 研究活動</p> <p>1. 研究活動の推進に関する取組</p> <p>【科研費等の外部資金の受入状況や取組】 科学研究費(基盤B-2件、基盤C-11件、萌芽研究-4件、若手研究B-4件、若手研究スタートアップ-2件) 受託研究 2件、共同研究 2件</p> <p>2. 特筆すべき研究成果、学会賞等</p> <p>本学部ドイツ語教授小川さくえの著作『オリエンタリズムとジェンダー』『蝶々夫人の系譜』は、西洋における日本女性像の成立と展開を、ロティ『お菊さん』からロング・バネコ、フツチの『蝶々夫人』を経てウオン『M・バタフライ』に至るまで、『蝶々夫人』の系譜という視点から検証した研究である。酒井啓子氏(東京外国語大学教授・中東現代政治)の『朝日新聞』(2007年11月18日)の書評、『音楽の女』(2008年2月)の吉村溪氏の書評、『フラッシュポスト』(2008年5月)の片岡律子氏(日本女子体育大学・独文学)の書評、城西国際大学『女性学・ジェンダー研究』第8号の相澤しのぶ氏の書評などでいずれも高い評価を受けている。早稲田大学のシンポジウム(2008年1月12日)にパネリストとして招待されるなど本書の反響は大きい。</p> <p>【学会賞等】 石川信一：日本うつ病学会第3回奨励賞 湯地敏史：第19回電気設備学会学術奨励賞 大泉佳広：第76回独立展独立賞(絵画)</p>

各学部・研究科の自己評価報告書(抜粋)



インフォメーションコーナー

6. その他業務運営

(1) 施設・設備等の整備・活用等に関する取組

- ① 「宮崎大学キャンパスマスタープラン」に基づき、附属病院外来診療棟増築、トイレリニューアル整備、屋根防水改修整備、バリアフリー整備、空調設備改修整備、小学校プール改修整備等を実施。



集光型太陽光発電システム完成式典

- ② 太陽光発電設備整備、講義室照明器具改修整備等を環境対策として実施。

- ③ クリーンエネルギーである太陽光発電設備として、屋上設置型及び集光型（太陽光を追尾する方式では国内最大規模）を整備。

- ④ 若手研究者の研究環境を改善するため、研究スペースの確保状況を調査、「若手研究者研究スペース確保方針」を策定。



附属小学校の渡り廊下(バリアフリー対策)

(2) 安全管理及び危機管理に関する取組

- ① 指紋照合システムと監視カメラによる放射性物質貯蔵室へのアクセスの監視記録の徹底、時間外・休日の出入制限等により、放射性物質の厳重管理を徹底。

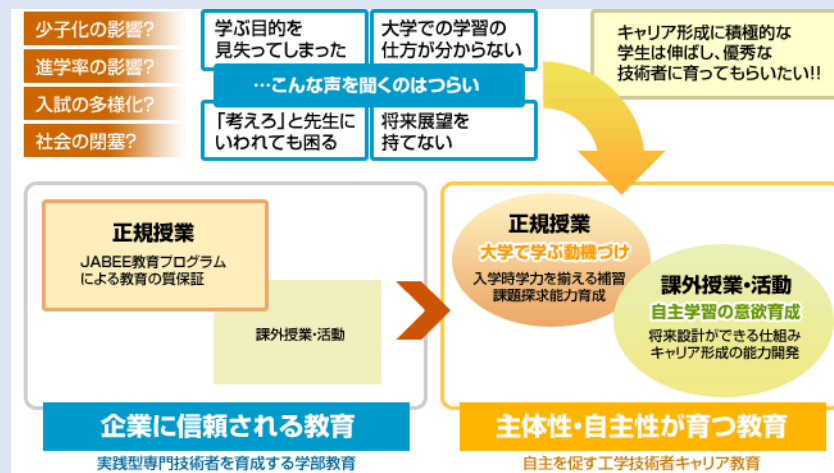


放射性物質に関する教育訓練

7. 教育研究等の質の向上の状況

○ 教育研究の高度化、個性豊かな大学づくりなどを 目指した、教育研究活動面における特色ある取組

- ① 学生の入試成績及び学業成績を調査・検討、看護学科に推薦入試を導入するなど選抜方法を改善。(医学部)
- ② 平成21年度大学教育推進プログラム「自主を促す工学技術者キャリア教育プログラム」に取り組み、技術者としての幅広い知識と社会性の獲得に向けて、課題探求力やデザイン力を育てる新たな取組等を導入、技術者育成プログラムを充実。(工学部)



「自主を促す工学技術者キャリア教育プログラム」の特徴

- ③ 東海大学・南九州大学と連携して、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「畜産基地を基盤とした大学間連携による家畜生産に関する実践型統合教育プログラム開発」をスタート。(農学部)
- ④ 学生の学会発表を推奨した結果、国際学会のベストポスター賞、国内学会の博士研究奨励賞を受賞。さらに、国内の学術雑誌に掲載された論文が、論文賞を受賞。(農学工学総合研究科)
- ⑤ 地域から修士(博士)論文テーマ募集を推進し、採用された課題の成果の発表会を行い、ホームページ上に公開。公募卒論・修論のうちから、優秀なものに学長賞を授与。



卒業研究テーマ発表会

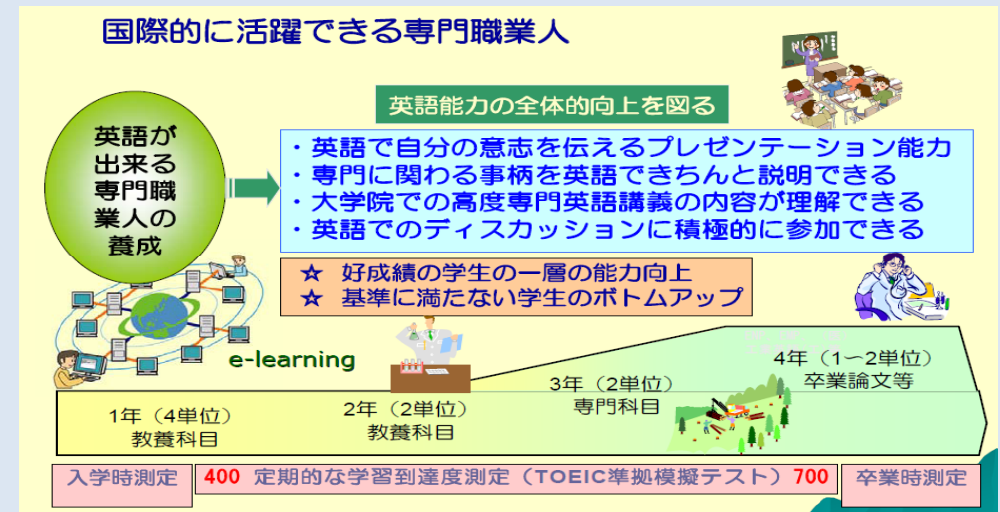
○ 国立大学法人の置かれている状況や条件等を踏まえた、教育研究活動を円滑に進めるための様々な工夫

- ① 退職者不補充及び人件費削減5か年計画による教員配置計画を考慮して、各学部における具体的かつ効果的な教員組織及び教員配置計画を継続的に検討。
- ② 獣医学科の教育充実の方針に沿って、産業動物にウェイトを置いた教育を充実させるとともに、学内外と連携して人獣共通感染症に関するセミナーを開催。
さらに、農学部生物環境科学科教員、フロンティア科学実験総合センター教員及び学外機関の研究者や獣医師を講師として、「魚病学」、「実験動物学」、「動物感染症学総論」の3科目を開講。

(1) 教育方法等の改善

1) 一般教育の指導方法改善のための組織的取組状況

- ① 国際的に活躍できる専門職業人育成を目指し、英語コミュニケーション能力育成のため、平成20年度開発の英語教育システム(文部科学省特別教育研究費)を活用し、基本4技能に必要な語彙力及び文法力をレベルアップ。
- ② 英語学習アドバイザーの採用及びTAの雇用による自学自習できるサポート体制を整備・充実。
- ③ 共通教育の一層の充実、並びに教育効果の向上を図るため、「共通教育(教養教育)のあり方」の検討の中で、新たな教育目標及び理念を設定し、それに基づく平成22年度新カリキュラムを策定。



学士課程一貫英語学習プログラム概要

2) 学部教育や大学院教育の指導方法改善のための組織的取組状況

- ① 学生の学習負担を適切にし、学習効果が上がるように年間取得単位数の上限を各学部で設定、カリキュラムを見直し。
- ② 全学の教育活動に関する事業の実施状況を把握し、点検・評価を実施。
- ③ 学生による授業評価及び教員の授業点検シートを活用した点検・評価を実施。

3) 学部学生や大学院学生の成績評価方法等の改善のための組織的取組状況

- ① 全学でGPA、GPC制度を平成22年度から導入することを決定。全学的に統一したGPA等の計算式を設定。
- ② 各研究科で学位授与の基準を設定し、オリエンテーション、キャンパスガイド(学生便覧)、ホームページで学生に周知。

4) 各法人の個性・特色の明確化を図るための組織的取組状況

- ① 県との連携により、学生向けに地域医療セミナーを実施。平成22年度から地域医療学講座(寄附講座)開設、地域医療学Ⅰ・Ⅱの講義を開設予定。
- ② 人獣共通感染症等に関する現在の大学院教育のさらなる充実化を図るため、全国初の医学と獣医学が融合した大学院医学獣医学総合研究科を平成22年度に設置予定。
- ③ 経済産業省産業技術人材育成支援事業の採択に伴い、「太陽光エネルギー変換工学特論」を開講。平成22年度には「太陽光エネルギー変換特別セミナー」を開講予定(工学研究科)。
- ④ 修士課程看護学専攻に「がん専門看護師コース」を新設(医学系研究科)。



地域医療セミナー

(2) 学生支援の充実

1) 学生に対する学習・履修・生活指導・メンタルケアの充実や学生支援体制の改善のための組織的取組状況

- ① 長期履修制度(教育学研究科、医学系研究科及び農学工学総合研究科)、昼夜開講制度(全研究科)、秋季入学制度(医学系研究科、工学研究科及び農学工学総合研究科)を実施。
- ② 国際的に活躍できる専門職業人育成を目指し、共通教育科目の英語コミュニケーション能力育成のため、英語学習アドバイザーの採用及びTAの雇用による自学自習できるサポート体制を整備・充実。
- ③ 「学生なんでも相談室」で、相談実績及び状況を点検、他の相談窓口との連携やカウンセラーの採用時間の拡大により、学生相談体制を充実。
- ④ 各学部に無線LANアクセスポイントや電源を増設。
- ⑤ 健康診断結果に基づく若年肥満者への健康指導(フードモデル使用)、新入生全員を対象としたアルコールパッチテスト、AED講習会、安全衛生セミナーを実施。
- ⑥ 入学時に実施した心理アンケートに基づき、所見の見られる学生に事後カウンセリングを実施。



「なやみと心の相談室」利用の手引き

2) キャリア教育、就職支援の充実のための組織的取組状況

- ① 高等教育コンソーシアム宮崎を通じて、宮崎県経営者協会とインターンシップ実施体制を構築、職業観及び社会への適応力を育成。
- ② 学生の将来設計、職業観の涵養を目的とした「キャリア教育」を充実。特に、就職支援について、就職ガイダンス、無料就活バス提供、「公務員等セミナー」開催等の取組を実施。
- ③ 宮崎県と共同の就職ガイダンスを増やし、宮崎県を通してキャリア・アドバイザーを追加配置するなど、宮崎県との連携を強化。

3) 課外活動の支援等、学生の厚生補導のための組織的取組状況

- ① 課外活動の支援として、グラウンド・テニスコートの改修及びトレーニング機器の更新を実施。



国際交流宿舎・男子寮

- ② 国際交流宿舎のユニットバスの増設及び補食室の機能改善改修、国際交流宿舎・男子寮・女子寮の共通物品更新を実施。

(3) 研究活動の推進

1) 研究活動の推進のための有効な法人内資源配分等の取組状況

- ① 若手研究者の研究環境を改善するため、研究スペースの確保状況を調査し、「若手研究者研究スペース確保方針」を策定。
- ② 研究戦略に基づき、「太陽光発電研究プロジェクト」、「地球温暖化問題への農学の挑戦」、「児童・生徒の“well-being(よりよき生)”の実現に資する教育実践とその理論的基礎に関する研究」等の研究プロジェクトに戦略重点経費を配分し、特色ある研究を推進。
- ③ 学部等の特色ある研究として、教育文化学部:「学校教育における能楽指導法の研究」外4件、工学部:「廃電子機器からの貴金属・レアメタル回収技術の開発」外12件、農学部:「大動物および小動物の神経疾患における新規診断法の開発」外7件の研究に学部長裁量経費を配分。



太陽光発電に関する研究成果発表会



「宮崎大学型若手研究リーダー育成モデル」事業 実施体制

2) 若手教員、女性教員等に対する支援のための組織的取組状況

- ① 科学技術振興調整費の「宮崎大学型若手研究リーダー育成モデル」事業により新たにIRO特任助教10人を採用し、若手研究者を支援。
- ② 「宮崎県の黒毛和種子牛の体重に関する成長関連ホルモン遺伝子多型の探索」等若手研究者の特色ある研究(15件)を戦略重点経費により支援。



宮崎発！第1回九州アイランド
女性研究者支援シンポジウム

- ③ 木花キャンパスにも新たに「清花Athena サポート室」を設置し、女性教職員に対する仕事と家庭の両立等における情報提供を行うなど、女性教職員に対する支援や環境整備を充実。
- ④ 女性研究者の研究の質や意欲の向上、自己実現の支援を目的として、「宮崎発！第1回九州アイランド女性研究者支援シンポジウム」を開催。
- ⑤ 優れた研究業績を挙げた女性研究者3人(大学院生2人を含む)奨励賞を授与するなど、女性教職員が働きやすい環境を整備。



女性研究者への奨励賞授与

3) 研究活動の推進のための有効な組織的取組状況

- ① 学長をリーダーとした大学執行部の情報共有を図るとともに、大学として競争的教育研究資金獲得のための戦略的かつ組織的な方針を策定し得る体制として、戦略的外部資金獲得を目的とした戦略企画本部を新たに設置。
- ② 科学技術振興調整費の「宮崎大学型若手研究リーダー育成モデル」事業の事務支援組織としてIR推進オフィスを設置。

4) 研究支援体制の充実のための組織的取組状況

- ① 学長管理定員を用い、農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センターなど、全学に教員7人を配置。
- ② 若手研究者の研究環境を改善するため、研究スペースの確保状況を調査し、「若手研究者研究スペース確保方針」を策定。
- ③ 競争的資金等を獲得した研究者及びIRO特任助教のため、木花キャンパス総合研究棟、医学部総合教育研究棟流動的共用研究施設を優先的に確保。

(4) 社会連携・地域貢献、国際交流等の推進

1) 大学等と社会の相互発展を目指し、大学等の特性を活かした社会との連携、地域活性化・地域貢献や地域医療等、社会への貢献のための組織的取組状況

- ① 戦略重点経費を確保し、共同研究支援経費として学内公募を行い、県内中小企業等との共同研究を実施する教員を支援。



シニアカレッジ2009修了生と大学関係者

- ② 県・市町村、西都原考古博物館、雲海酒造等と連携して企画の立案や広報等を行い、多くの参加者を得て、「宮崎大学シニアカレッジ2009」を実施。

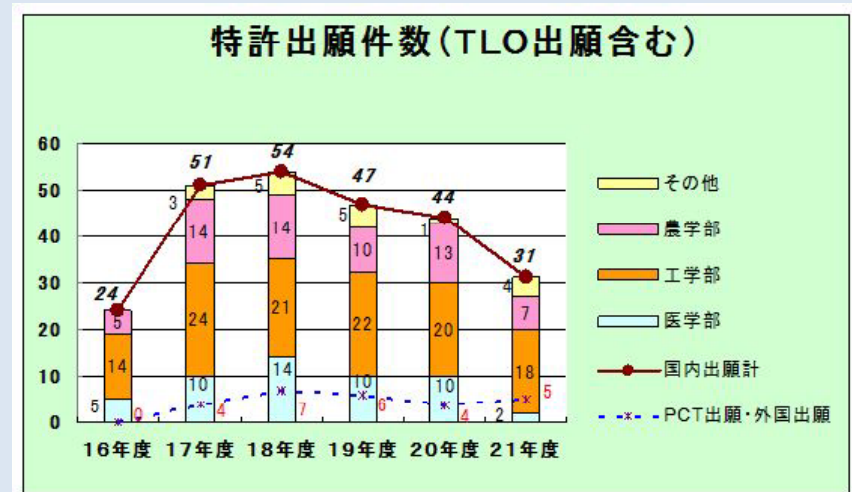
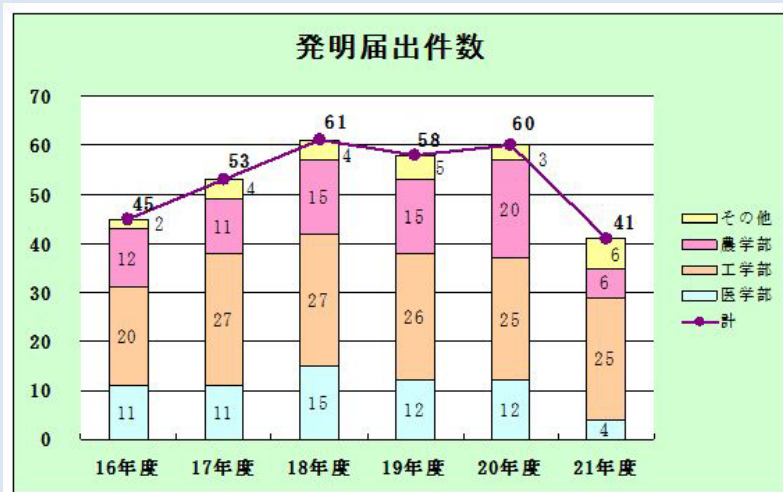


神楽を体験する受講生

- ③ 高校等の学校及び教育組織と連携し、引き続き出前講義や体験授業、現職教員の研修等を実施。
(出前講義: 県内高校向け延べ59件、県外高校向け延べ23件)
- ④ 医療機能向上と先端医療機器の充実による地域医療機関への活用を図るため、MRIを増設。
- ⑤ サテライト診療所として平成19年度に設置した「橘通歯科口腔外科クリニック」において、地域の歯科医院からのデンタルCT検査の依頼に対し、本院の「はにわネット」を通じて紹介元歯科医師がCT画像を遠隔で参照できる遠隔画像連携システムを稼働、地域の歯科医院5ヶ所との連携を開始。
- ⑥ 宮崎県と連携した医師確保対策の一環として、平成22年度に医学部「地域医療学講座」(寄附講座)を設置することを決定。地域に根付く医学生の育成、県内の医師の適正配置の研究等を行う予定。

2) 産学官連携、知的財産戦略のための体制の整備・推進状況

- ① 宮崎県の基幹産業である畜産業の振興のため、地域産学官共同研究拠点整備事業(JST)「みやざき産学官(産業動物)共同研究拠点」に採択され、宮崎県・JA宮崎経済連との共同研究を開始。
- ② 産学官連携戦略展開事業(戦略展開プログラム)で部門員を雇用し、県内関係機関を含めた知的財産活動体制を強化。
- ③ 知的財産に基づく産学官連携等を図るため、学長管理定員を活用して産学連携センター知的財産部門に教授を配置。



3) 国際交流、国際貢献の推進のための組織的取組状況

- ① 国際交流協定締結校を34校(内23校が授業料不徴収の学生交流)に増加。
- ② インドネシアの大学とダブルディグリープログラムを実施するための協定を締結。



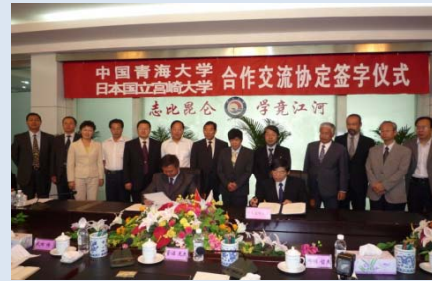
インドネシアに設置した海外オフィス

- ③ 協定校との間で実施する「異文化交流体験プログラム」で、15人を受け入れ、25人を派遣。
- ④ インドネシアのブラウイジャヤ大学内に本学の海外オフィスを設置。

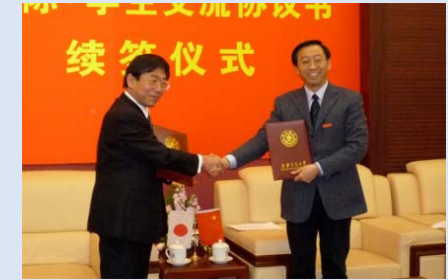
- ⑤ 国際連携センターを中心に、国際交流事業を組織的に推進する体制を強化。
JICA草の根技術協力事業、JICAリンケージプログラム及びインドネシアTOT研修、JICA地域別研修、サマープログラム等の国際交流事業を実施。



JICA草の根技術協力事業の成果報告会



中国・青海大学との学术交流協定



中国・上海交通大学との国際交流協定



JICA(国際協力機構)地域別研修
「中東地域女性の健康支援を含む母子保健方策」

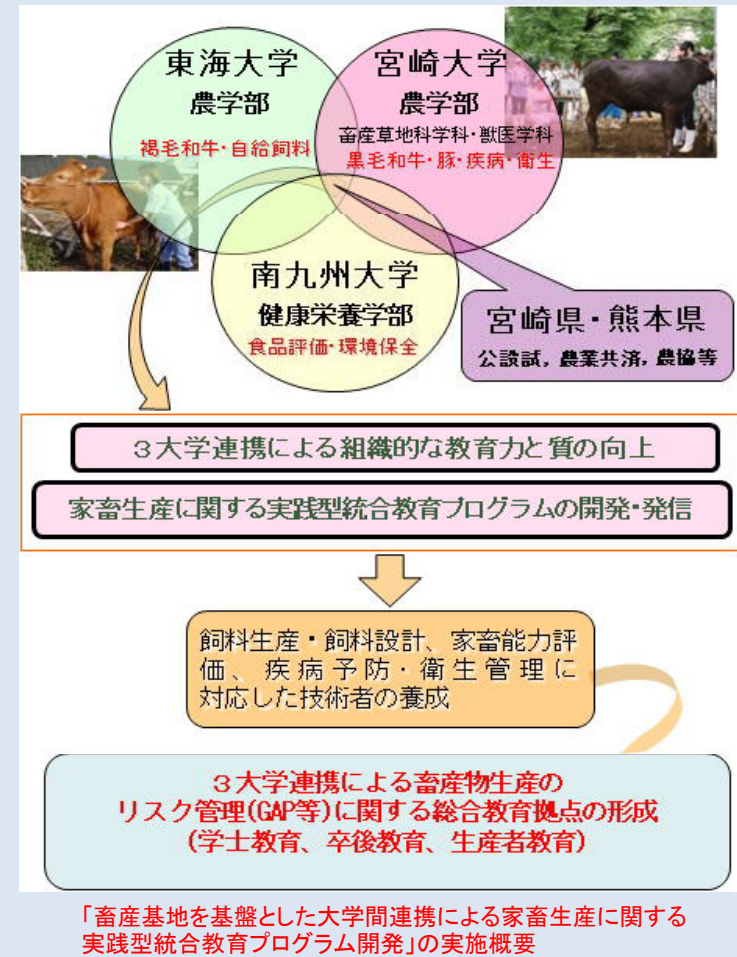


JICA地域別研修
「アジア地域総合的砒素汚染対策」

(5) その他

1) 他大学等との連携・協力についての状況

- ① 異文化交流体験プログラムで、中国(南京農業大学10人)、韓国(順天大学校15人)へ学生を派遣。
- ② 都城工業高等専門学校と連携し、太陽光発電人材育成プログラム(経済産業省人材育成パートナーシップ事業)を実施。(工学研究科)
- ③ 「遺伝資源専門技術者養成モデルカリキュラムの開発プログラム」の後継プログラムとして、タイのカセサート大学及び韓国の順天大学と連携した「生物遺伝資源教育プログラムの国際的展開」が採択。(農学研究科)
- ④ 東海大学・南九州大学と連携して、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「畜産基地を基盤とした大学間連携による家畜生産に関する実践型統合教育プログラム開発」をスタート。(農学部)
- ⑤ 奈良教育大学とのGP「実習到達度を明確にした実践的指導と評価法」の取組の中で、全国フォーラムやシンポジウムで本学の教育実習の内容・方法等について紹介。(教育学研究科教職実践開発専攻)



8. 附属病院

(1) 一般の病院とは異なる大学病院固有の意義・役割を含め、教育研究診療の質向上や個性の伸長、地域連携や社会貢献の強化、運営の活性化等を目指した特色ある取組

① がん診療連携拠点病院として、宮崎県のがん診療の中心となり、がんセミナー13回、がん診療講演会2回及び各種協議会や専門部会を開催。

② 院内の化学療法レジメンの統一化を図るため、がん領域別に14グループに分類し、8グループの院内共通レジメンを作成。

③ 肝疾患診療連携拠点病院の指定を受け、宮崎県における肝疾患診療ネットワークの中心的な役割を果たすため、院内に「肝疾患センター」を設置。

④ 一般県民からトップアスリートまでを対象に、県内の医療機関において、スポーツに関する健康相談が無料でできる体制を構築。

運動解析から得られた情報を基に、フォーム指導を含めた練習メニューの指導を行うなどのメディカルチェックサポートプログラムを構築し、トップアスリートの管理や初期対応を開始。



新外来診療棟完成式典

(2) 社会的・地域的なニーズや重要かつ喫緊の政策課題等への対応として顕著な取組

- ① 地域医療再生臨時特例交付金における「宮崎県地域医療再生計画」に基づき、附属病院を実習の場として地域医療に貢献する医師の養成を図るために、医学部医学科地域医療学講座(寄附講座)を平成22年4月に設置することを決定。
- ② 地域医療再生臨時特例交付金における「宮崎県地域医療再生計画」に、救命救急センターの設置及びドクターヘリコプターの導入を盛り込み平成23年度中の設置を目指すことを決定。

(3) 運営や教育研究診療活動を円滑に進めるための工夫や努力の状況

- ① 経営企画会議において、経営企画担当副院長を中心に、診療科還元予算配分の実施、放射線検査の外来化推進策、血液浄化療法部の実施件数改善策等を協議、病院の機能強化や病院再整備事業に係る人員の配置計画について審議するなど経営健全化を推進。

本院の理念

良質な医療を提供するとともに、医療人の育成と医療の発展に貢献し、患者さんに信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さん中心の最適な医療の実践
2. 地域の要望にこたえる医療の実践
3. 先端医療の開発と提供
4. 人間性豊かな医療人の育成
5. お互いを尊重し、チームワークのとれた職場環境の整備

患者さんの権利 ~本院は患者さんの権利を守ります~

- 誰でも良質な医療を公平に受けることができます。
- 診療の内容などについて、あらかじめ十分な情報と説明を受け、理解した後、同意あるいは拒否を選択する権利があります。
- 診療録に記録された自分の診療内容について、本院の規則に沿って、情報の提供を受ける事ができます。
- 診療内容その他についてあなたの情報は保護されます。
- 患者さんの尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。

(4) その他、大学病院を取り巻く諸事情(当該大学固有の問題)への対応状況等

- ① 患者のプライバシーの確保を目的に診察室を個室化した新外来診療棟を平成22年2月に竣工。
- ② 各病棟とヒアリングを実施し、病棟改修中の休止病床を最小限に抑えるための仮設病棟整備案を策定。
- ③ 集中治療部において、段階的にスタッフの増員等を図り、16床を完全稼働。



附属病院新外来棟



第20回ふれあいの心コンサート(院内)



高校生を対象にした「ふれあい看護体験」



小児科病棟でのクリスマス会

9. 附属学校

(1) 学校教育について

1) 実験的、先導的な教育課題への取組状況

- ① 「人とのかかわり方」について学ぶ「コミュニケーションスキル学習」、「ストレスマネジメント教育」、「抑うつ予防教育」等の先導的な研究を実施。
- ② 幼稚園;全国附属連盟幼稚園部会として文部科学省の研究委託を受けた「協同性」についての研究を実施。
- ③ 小学校:児童への継続的なメンタルヘルスの測定による指導を充実。
- ④ 中学校:「生きる力」を育む観点からの、言語活動の充実に視点をおいた総合的な学習の時間を活用。
- ⑤ ビオトープの管理者を配置することによる環境整備と、生活科、図画工作等でのビオトープを活用した学習を充実。



附属幼稚園



附属中学校3年生による生物調査

2) 地域における指導的あるいはモデル的学校となるような、教育課題の研究開発の成果公表等への取組状況

- ① 地域における指導的・モデル的役割を果たすため、各種初任者研修会、課題別研修講座等を実施。



附属小学校

- ② 小・中学校で、多くの参加者を得て、九州算数・数学教育研究大会を開催。
- ③ 中学校は、九州地区理科教育研究大会の会場校となり、授業の場を提供。
- ④ 3校園とも、県内外より多くの参加者を得て、公開研究会を実施。

(2) 大学・学部との連携

1) 大学・学部の間における附属学校の運営等に関する協議機関等の設置状況

- ① 学部長、評議員、校園長、副校園長等により構成される附属学校運営委員会において、各校園の活動、運営及び連携について協議し、充実・改善を実施。

2) 大学・学部の教員が一定期間附属学校で授業を担当したり、行事に参加したりするようなシステムの構築状況

- ① 学部と附属学校園との共同研究や連携活動の一環として、幼稚園でのミニコンサート開催や卒業式での生音楽演奏等、各種行事に参加。
- ② 幼稚園年長児に対し、大学教員と学生が一定期間、表現ダンスの指導を実施。
- ③ 大学教員が幼稚園年長の親子を対象とした体操教室を毎週土曜日に実施。
- ④ 小学校で、スポーツ・体操教室を毎週2日実施。
- ⑤ 中学校におけるビオトープでの学習時に、大学教員が学生とともに授業支援を実施。
- ⑥ PTA実践活動の一環として、大学教員が生徒と保護者を対象に、専門性を活かした10講座を開設。



附属中学校

3) 附属学校の大学・学部のFDの場としての活用状況

- ① 年長児クラス親子を対象とした体操教室で行っている指導実践的な内容を、参加者を対象としたアンケートの結果も踏まえて、学部授業の改善に活用。

宮崎大学の歌

作詞:熊瀬川 逸子
作曲:齊藤 武
補作:菅 邦男

mp

1. そ らう たが かな くだ か み が み の さ
2. ひ らう たが かな くだ か ま が の お す さい
3. や ま たが な み の の う ま つ く し お す が

4
どろ た こあお こたび ひたす むかぎ かくの あきて おらん しめく まくう のしき そろし むいて

8
こな のみ だのこ いごと ちとく みこり どこそ りろう しやを げきた れしか るくく まきい なよし ーびらつ ーやかよ ー

12
でに せん じん のの か が や く わ だ ち ふ み し め
く とき はな をか のけ かふじ がう ゆ どう がを はた わぐび だくす ちむる くの とり みの しの しゃよ いう

16
てしに *f* みし せ らんか いりい にをに かもひ けとろ るめく わまは こなば どのゆける } ゆめ と きぼう

20
の みち し る ーべ *ff* みやざき だいがく

1. 空高く 神々の里 ここ日向
青島望むこの台地 緑茂れる学舎で
先人の輝く轍踏みしめて
未来に架ける若人の 夢と希望の道標
宮崎大学
2. 日向灘 浜木綿の顔色 暖かく
煌めく白い波のごと 心優しく清らかに
木花の風土が育む命愛し
真理を求め学びゆく 夢と希望の道標
宮崎大学
3. 山脈の美し姿 飢肥杉の
天空さして在るごとく 理想を高く意志強く
時を翔け自由を旅する鳥のように
世界に広く羽ばたける 夢と希望の道標
宮崎大学

